

会 議 報 告 書

会議名	平成30年度第2回 三郷市地域包括支援センター運営協議会		
日 時	平成30年10月18日(木) 午後1時30分～2時50分	場 所	健康福祉会館5階、501・502会議室
次 第	1. 開会 2. 議事 (1) 報告 ・平成30年度(平成29年度分)三郷市地域包括支援センター実地検査結果について【資料1-1】【資料1-2】 ・地域包括支援センターみずぬまの運営体制について【資料2】 ・平成30年度(平成31年度分)三郷市地域包括支援センターの受託意向の確認について【資料3】 3. その他(連絡事項等) 4. 閉会		
出席者	【会 長】谷口聡 【副会長】種市ひろみ 【委 員】海老原英之、岡田育代、菊池 芳子、二瓶嘉之、松本博子、水口理恵、八塚俊雄 【地域包括支援センター】加藤所長(みずぬま)、樋口所長(早稲田)、矢口所長(ひこなり北)、石本所長(みさと中央)、佐藤所長(みさと南)、入澤所長(しんわ) 【事務局】小暮勲(福祉部長)、森泰子(福祉部副部長兼ふくし総合支援課長)、齋藤衣子(ふくし総合支援課副参事兼ふくし総合相談室長)、峰川修一(長寿いきがい課長)、吉井馨(長寿いきがい課長補佐兼長寿いきがい係長)、高橋浩(長寿いきがい課長補佐兼介護給付係長)、谷口寿美枝(ふくし総合支援課ふくし総合相談室地域包括係長)、元井隆幸(同 主査) 【社会福祉協議会 事務局】宮田久美子(社会福祉協議会副事務局長) 【傍聴人】 0人		

●審議事項における確認事項

議事
(1) 報告 ・平成30年度(平成29年度分)三郷市地域包括支援センター実地検査結果について承認 ・地域包括支援センターみずぬまの運営体制について.....承認 ・平成30年度(平成31年度分)三郷市地域包括支援センターの受託意向の確認について承認 (2) その他.....報告
平成30年度第2回三郷市地域包括支援センター運営協議会 議事要旨
1. 開会 (司会:森副部長)

○谷口会長あいさつ	
○小暮部長あいさつ	
2. 議事	
(1) 報告	
・平成30年度（平成29年度分）三郷市地域包括支援センター実地検査結果について【資料1-1】【資料1-2】	
会長	次第に沿って議事を進行する。それでは事務局に説明をお願いする。
事務局	【資料1-1】【資料1-2】説明
会長	この件に関して、委員からセンター長に質問・意見はあるか。
水口委員	指導と助言をいただきたいという意見が多い。地域活動が不活発な地域について、具体的にどうしたらよいのか、どのような方法があるのか、資料から読み取れない。運営に関し助言をしているのか。
事務局	実地検査で内容を聴取した際、地域活動が不活発な地域の活性化にする地域作りについては難しい。包括との連携に関し重要な事柄なので、来年度の運営方針を決定する際も所長と検討していきたい。
水口委員	検討を進めていきたいことは汲み取れるが、具体策が無い。当初から話し合ってきた事項であるが、地域資源の開発が見えてこない。具体的な提案をしていくと良いと考える。 また、ワンストップで受け止めるという事項だが、地域包括支援センターの仕事量が多い。国からワンストップでという指針があるのであろうが、三郷市としてワンストップは難しいのではないかと。
事務局	全体評価のワンストップについて。各包括支援センターが努力していただき、市として感謝している。ワンストップに関する考え方についてご質問頂いたので、これまで考え方をお伝えする。福祉総合相談室自体も市民から様々な悩みや相談をワンストップで受け止める目標があった。 ワンストップとは、包括支援センターも実施して頂いているが、身近な最初の相談場所である。複数の問題を抱えた相談をいったん受け止め、話を聞く努力をしている。その先のすべての処理、又は各制度の処理を全て1箇所で行うのが理想ではあるが、行政全てのサービスの決定ができるものではないので、課題や優先する問題を、その方に寄り添いながらより良く生活するためのサービスに繋げていくものである。 中でも、市役所にご相談に来られる複数の困難な問題を抱えているお客様の話を傾聴・訪問を繰り返し、解決すべき優先順位、対応行っている。ワンストップで受け止め、他課では無い活動を各包括支援センターは実施している。以上
水口委員	複合的な問題が見えることもあるが、包括支援センターとして実際に相談を受けている方たちはワンストップという考え方に対し、どのように考えているのか。
会長	ワンストップについて、各所長はどのように対応しているか。悩んでいることはないか。
包括みずぬ	まずは、傾聴し受け止める。相談の複合的な問題や課題の整理、優先順位を付

ま	ける、課題解決に向けどここの部署に繋げるかを一番に考え支援している。
ひこなり北	相談を受けた際、様々な複合的な問題があるので振り分けをする。そのために包括に専門職がいる。例えば、権利保護であれば社会福祉士から行政に繋げている。そこでワンストップという形となっている。
みさと南	包括に来所する段階で、医師から包括支援センターを勧められ来所しているのでワンストップになっていない状況である。 調査員からサービスを変えたい、ケアマネジャーを変更したい、対応に困難な電話応対の際も包括を紹介すれば済むと考えているように感じる。 町内連携の中でワンストップができることもあるのではないかと考える。
水口委員	市民の皆さんと関わりあっていくと、やはり包括支援センターが頼りになるので勧めてしまう。市民にとって市役所よりも包括支援センターの方が近い存在で、相談しやすい。存在価値がある。 包括支援センターに多くの仕事をお願いして良いのか。常に予算不足や人員確保の面でも包括の仕事を考えてほうが良いのではないかと考える。
会長	他に意見はあるか。
種市副会長	包括支援センターひこなり北のみ、認知症の方が徘徊した際に独自のネットワークがあるようである。包括支援センターに負担となっていないのか、どのような連携をしているのかをお伺いしたい。
ひこなり北	第3圏域は彦成1丁目、2丁目の地域、彦成3丁目に団地を抱えている。団地に関しては、いきいきサロンや包括に繋ぐ。健和団地の方の徘徊があった際、包括と様々な所と連携し、本人を確保できた。 徐々に顔の見える関係作りをしながら、ネットワークを確立されている。近隣にサロンがあるので助かっている。
種市副会長	協力してくださる方々が増えて、その方たちに声を掛けると包括だけではなく動けるようになってきたという事である。
会長	他に意見や質問はあるか。
八塚委員	全体評価の中の6番、医療機関との連携について。在宅医療の利用が少ないとある。どのような連携をしているのか。
事務局	実地検査で伺ったのは、ひこなり北の圏域で谷口先生の案件を伺った。市内で在宅看取りの件数が増えていない。在宅医療に関係する看取りの意識が統一されておらず、連携の難しさを感じた。 ご親族、ご家族の中でも様々な考え方がある中で、ご本人の望む最期が理解されにくい部分がある。
八塚委員	包括支援センターとの関わりがあるという感覚でよろしいか。包括支援センターの業務の範囲内ではない印象があったので伺った。
会長	関連した質問であるので、医師会の代表として医療機関の連携として注目した。ほとんどの圏域の包括支援センターから医師、看護師の連携については良くできているという評価が付いている。第3圏域で一部、看護師いない、医師からの相談が少ないとある。医師会や医療機関の関連性は概ね良好である。 最後の在宅医療との連携について。8ページの6番は在宅看取りについて3が

	<p>多く、連携が充分ではないと感じる。</p> <p>実際に包括支援センターの利用者で看取りまで見続ける利用者はいらっしゃるのか。ほぼ居宅になって看取りまでの症例は殆ど無いのではないか。</p> <p>ひこなり北圏域の看取りは珍しい事例である。特に、在宅診療医が豊富と思われるみさと南や早稲田に関しては看取りまでの症例は無いのではないかと思われる。その中で、看取りまでの症例はあったか。</p>
早稲田	<p>やはり無い。ターミナルの方で病院への申請から暫定プランまでの相談は頻繁にある。在宅で暮らすにあたり、在宅医療、訪問看護医療保険で対応をすることが殆どである。</p> <p>そこに地域包括として看取りの段階まで一緒にやっていく事例は無い。一定の所で居宅介護支援事業所に引き継ぎをしていく事が多い。</p>
しんわ	<p>ターミナルの相談が多いが、包括が直接かかわり看取りまでという事例はない。包括支援センターとしての立場で施設に繋げる連携はできている。</p>
会長	<p>ターミナルの利用者様がいた場合、医師や居宅介護支援事業所に繋げる際に困難だった事例はあるか。</p>
みずぬま	<p>医療機関や医師・看護師との関係よりも、居宅介護支援事業所のケアマネジャーを見つける方が大変である。みなさん件数を抱えており、1人の方をお願いするのに6か所も断られるのが普通になっており、そちらの方が大変である。</p>
二瓶委員	<p>慢性的に昨年の秋頃から、国からの通達のあった35人前後在籍している全てのケアマネジャー、特にターミナルまで診察しているケアマネジャーは、利用者の動きが早く短いため難しい。</p> <p>現実として全てのケアマネジャーも上限まで業務を行っているので、ケアマネジャーの数が不足しているのか、利用者数が増えてきているのかと感じている。</p>
会長	<p>包括支援センターがターミナルで困難なことは、居宅介護支援事業所のケアマネジャーが見つからない事例である。他に意見はあるか。</p>
岡田委員	<p>4. 認知症高齢者への支援の部分である。認知症というと、まず高齢者となるが、11月5日にさいたま県で若年性認知症の研修が行われる。10月6日に都内で認知症フォーラムが開催された。</p> <p>若年性認知症の様々な問題を抱えた方が増加している。または、今まで潜在していた問題が表面化し、支援が必要だと声を上げられているのかは疑問である。三郷市も認知症の方々への個別支援について十分に実地されていると評価されている。</p> <p>今後、若年性認知症のご家族からの最初の相談窓口は包括支援センターとなるため、包括支援センターで研修をされると良いと考える</p> <p>若年性認知症の方が利用できるサービスもほとんど無い。サロン、就労支援、家族対応についても包括支援センターの役割が増えるのではないかと危惧している。</p>
会長	<p>若年性認知症に注目して支援をした包括支援センターはあるか。(無し) 今後、来年度の課題となる。</p>
水口委員	<p>3. 権利擁護業務の部分で、困難な事例の対応に疲弊しているという文章があ</p>

	るが、この意見に対し市としてどのような支援、助言をしているのか。
事務局	<p>困難な事例の相談をを包括支援センターからいただいた際、包括支援センターで抱えきれない困難な事例は市役所としては福祉総合支援課だけではなく、長寿いきがい課や障がい福祉課と連携し、検討する必要がある。</p> <p>その際には、弁護士、社会福祉士をアドバイザーをしてお招きし、困難な事例に対し新しい対策、ご意見をいただく会議を開催している。</p>
会長	他に意見はあるか。
副会長	早稲田の圏域で地区分析を積極的に行っており、地区に対応した様々な展開をしているとみられるが、地区分析を展開し、良くなった事例があればお聞かせ願いたい。
早稲田	<p>途中の段階であるが、包括支援センターの下にあるNPO法人三郷早稲田ライフネットワークで早稲田地域の調査を行っている。埼玉県立大学の先生と包括のメンバーも入り共同研究をしている。</p> <p>地域サロンに来所している方への聴き取り、スタッフとしてボランティア活動をしている方にアンケート調査をしている段階である。</p> <p>1回ずつの研究会議の中に多くのヒントがある。包括支援センターの活動に日々活かしている。地域の要支援、要介護の段階ではない、支援の段階だが支援に繋がっていない方々の声が聴き取りしやすいので上手く行っている。</p>
水口委員	何年くらいかけ調査を行うのか。
早稲田	研究なので3年ほどかける。
水口委員	<p>介護保険のパンフレットができたので、地区サロンで皆さんに見ていただいた。添付されているチェックシートが非常に良くできていると思う。介護保険が必要な方や、包括に相談に行った方が良いレベルが数字で良く見える。</p> <p>地域包括支援センターの方はチェックシートを使用しているのか。有意義であるので、広く色々な場所で活用すると良いのではないかと。市として調査は実施しているのか。</p>
長寿いきがい課	今年9月から運用を始め、来月から地域包括支援センターでご協力いただく。
水口委員	市はデータとして活用するのか。
長寿	始まった段階なので、まだ数的処理は出来ない。件数が上がり次第、順次データベース化していく。パンフレットを作成し、包括支援センターに依頼している。その他、市のホームページで周知している。介護認定の更新の方に総合事業の案内をしている。
水口委員	町会、民生委員へも案内をし、情報収集をした方が良いのではないかと。
長寿	順次検討し対応していく。
会長	<p>毎年この課題が出てくるが、負担が少し軽減したと書いてあるので良い方向に進んでいるのではないかと感じる。実地検査についての議事はこれで終了する。次の報告事項に進む前に各地域包括支援センター長はご退席をお願いする。</p> <p>なお、みずぬまのセンター長におかれては、社会福祉協議会の職員を呼んでいただくようお願いする。</p>

	(センター長退席、社協宮田副事務局長とみずぬま所長入室)
・三郷市地域包括支援センターみずぬまの運営体制について【資料2】	
承認	
・平成30年度(平成31年度分)地域包括支援センターの受託意向の確認について【資料3】	
承認	
3. その他(連絡事項等)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉改選の説明(11月13日任期満了のみ) ・謝金の振込予定日 ・【資料2】【資料3】は、会議終了後回収
4. 閉会	
○森副部長あいさつ	